

信頼されるグローバルカンパニーを目指します



代表取締役社長

南雲忠信

かつて私は、企業の究極の目的は収益を伴った成長であり、事業活動はその追求のためにあるとの認識を持っていました。しかし現在の私は、企業は社会的責任(CSR)を果たすことが重要であり、その実践を通じて初めて持続的な成長が実現できると考えるようになってきました。その典型が環境問題です。今日世界は、地球温暖化、環境汚染、資源枯渇など、早急に対策を講ぜねばならない数多くの問題に直面しています。こうした危機に際して、環境側面でCSRを果たさない企業は、サステナビリティ(持続可能性)を求める社会の阻害要因となり、事業活動の継続が許されなくなっています。

CSRは環境側面だけにとどまりません。コーポレートガバナンス、労働慣行、人権、製品責任などに関し、「ISO26000」によって、世界的な基準が形成されつつあります。すでに横浜ゴムグループでは、「ISO14001」などの国際規格や国内外の各種法令に基づいて、経済、環境、社会側面の体制を整えています。今後はCSRの世界的な基準にも照らし合わせて、さらに整備・充実を図っていく考えです。

横浜ゴムグループにCSRを定着させるためには、従業員一人ひとりが事業活動を通じてCSRを実践することが当たり前であると本音で理解することが重要です。そのため私は、CSRのR(Responsibility)を「責任」ではなく、「信頼」と訳したいと思います。「責任」というと「やらねば」との義務感が生まれますが、「信頼」と言えばずっと分かりやすくなります。「環境を汚染せず、人を大切にする、世界から信頼される企業になろう」と全従業員に呼び掛けたいと思います。そしてその前提となるのはしっかりしたコーポレートガバナンスであり、コンプライアンス意識の徹底だと考えています。

私は企業にとって最大の社会貢献は税金を納めることであり、多額の税金を支払うことは企業価値をも高めると思います。そして税金は社会の改善に使われるものであり、納税することに見返りを求めてはならないと考えます。その意味で、環境への投資も税金と同じです。たとえ環境改善に向けた投資が経済的に見合わないものであっても、社会的に必要なコストと考え、積極的に実施していきたいと思います。

横浜ゴムグループはCSRの実践を通じて、ステークホルダーの皆さまと共にサステナビリティな社会の形成を目指したいと思います。こうした企業姿勢をご理解いただき、今後とも変わらぬご支援を賜れば幸いです。